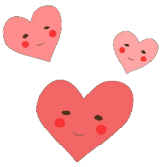

『介護をしているあなたへの質問』の利用について

医療や介護が必要な状況になっても、住み慣れた場所で自分らしく暮らすためには、要介護者のみならず介護者も支援する体制が必要です。このアセスメント票は、介護者の状況を把握し、早期に支援につなげることを目的に、射水市在宅医療・介護連携推進協議会「在宅医療介護提供体制ワーキング部会」で作成し、「在宅支援ワーキング部会」で改訂したものです。介護者の状況を聞き取る際のツールとしてご利用ください。また、**聞き取った後の支援については、「射水市介護お助け隊」（在宅での介護者へ、必要な相談先をケアマネジャーが紹介するためのガイドブック）などをご活用ください。**

1 アセスメント票の対象者

在宅で介護している家族等

※新規にアセスメントを行う際や介護の状況に応じて必要な方へ利用してください。

（このアセスメント票は利用を義務付けるものではありません。）

2 アセスメント票の使用方法

介護者本人が記入できる場合は記入してもらい、内容に基づき、より詳しく状況や気持ちを聞き取ります。介護者本人の記入が難しい場合は、聞き取りで作成します。

3 聞き取りのポイント

- 傾聴（話を聴く姿勢、あいづちなど）に努めましょう。
- 介護者の方に焦点をあてていることを伝えましょう。
- 話すことへの抵抗感がある介護者がいることも理解して接しましょう。
- 介護に関する“認めてほしい”と思う気持ちを理解しましょう。
- 要介護者に関わる悩みと介護者自身の悩みがあることを理解しましょう。
- 個人情報の保護についても説明し、徹底しましょう。

～日本ケアラー連盟報告書より抜粋～

問１

介護を始めてから１か月間は、いろいろな困りごとが多く現れる時期のため、細かな声かけを行うなどの支援が必要です。

問２

介護者の健康状態を確認する項目です。身体面（現病歴や既往歴）だけでなく精神面の把握として（3）～（7）の項目について主観的にどのように捉えているかを聞き取ります。健康を維持するために健診受診を勧めたり、健康状態が良くない場合は、かかりつけ医や専門医への受診を促すことが必要です。

問３～問６

介護をするにあたり、協力体制や相談体制があるかどうかを聞き取ります。ケアマネジャーにどんなことを相談できるかを伝えます。

問7～問8

介護をする以外にどんな役割を持っているかを把握する項目です。介護者の生活を考える上で参考にします。

問9

介護をしている人との関係性は介護者のストレスに大きく関係します。「介護をする前」と「現在」に差がある時は、そのように感じる理由を聞き、支援が必要かを判断します。

問10

介護をすることについてどのように受けとめているのかを把握し、抵抗を感じている場合は、どのようなことに抵抗を感じているか等介護者の気持ちを聞き取り、傾聴します。

問11

経済的な負担感を把握し、介護保険サービス、介護保険サービス以外の費用負担について、具体的に聞き取りましょう。

問12

〇のついた項目に対し、どのように実施し、どんなことに困るのかを詳しく聞き取ります。介護方法を習得するために必要な支援を提案します。

【問13の聞き取り例】

・今後、どのような暮らしを望みますか？（介護者はどう考えますか？/本人とは話合っていますか？）
・本人の状態が変化したとき、どうしたいと考えますか？
（自宅で最期を迎えたいか？食べられなくなったらどうするか？など人生の最終段階における選択など）